自然賛歌

安芸のひとつ火と泉水峠を歩く

妹尾 治人

原の山に輝いていたと言う安芸のひとつ火はどの山だったのか。泉水峠付近の山に違いないと思い歩いてみたが全くわからない。

地元で聞けば何かわかるかもしれないと思い原の古老に聞いてみたところ、安芸のひとつ火は山の上ではなく山麓で、そこには立派な石碑が建てられていると聞き、大喜びでその場所に行き写真を撮らせてもらった。

安芸のひとつ火跡を尋ねるには、原・川末行きのバス終点で下車、そこから約六〇〇m登ると川末橋がある。そこから見て左上に赤瓦の屋根の上さんの家がある。家の裏の小道を登ると桧林に出る。石碑はその桧林を少し入った所にあった。石碑の表には「安芸のひとつ火跡」、裏には「昭和六二年四月原老人クラブ連合会建之」とある。

「安芸のひとつ火跡」碑

この碑の西側にお宮があり、東側には禅寺（現在は水田）があったとのことである。また、この碑の左前にはなんと安芸のひとつ火を探り当て、そこを掘って見たという直径四m程のくぼみが残されているが、不思議な光の正体は分からなかったようだ。

ここから見る海の眺めはすばらしく、海上からもこの場所はよく見えたものと思われる。林床にはなぜか茶の木が多い。碑の前にはエビネ欄が植えられており、五月初めに美しい花を見た。

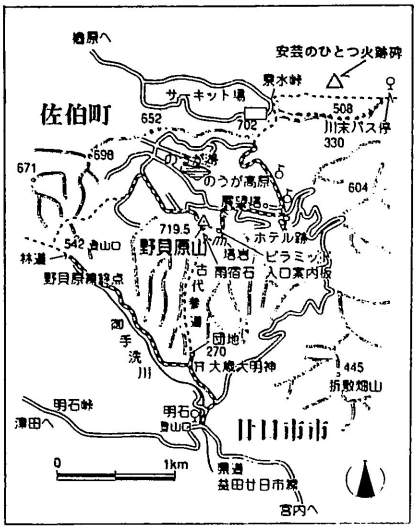
泉水峠に登るには、ここから川末橋まで引返し少し行くと、川末川の支流にかかる橋の右側に林田さんの家がある。そこが登山口で、登り始めると左に大きな芭蕉の株がある。川筋を一〇〇m登ると道は右の山に入る。林床には茶の木とシダ類が多い。

茶の木は栄西禅師が建久二年（一一九一）中国から持ち帰り全国に広められたもので、この付近に茶の木が多い理由は、原の禅寺に植えられたものが広がったものと考えられる。道中運が良ければ、きじ・うぐいす・きじ鳩・野兎等に出会う。登山口から約四〇分で泉水峠に到着する。

ここから野貝原山は近いので登ってみよう。峠の標識から左の舗装道路に出て、少し登るとサーキット場の塀が見えてくるが、野貝原山へはその手前左側の鉄橋を渡って山に入る。五〇m先の分岐点を右に進み、サーキット場を右下に見て進むと野貝原の広い道に出る。そこを左に行くと泉水峠から約二〇分で高原ホテル（昭和六一年廃業）に到着、ここからの眺望はすばらしい。下山はサーキット場のところまで引返し、送電線の鉄塔No.10～No.7の見晴らしのよい稜線をたどれば約四〇分で出発点の川末バス停にたどり着く。

〃原の里安芸のひとつ火謎を秘め〃

（自然観察指導員）



泉水峠付近概略図

自然賛歌は今回で十回目。毎回原稿のネタ探しに歩き廻っています。若し、自然観察を希望される方がおられたら大歓迎！毎月第一土曜日九時半市役所前バス停集合。弁当と雨具持参。申し込み不要。雨天決行。行先は当日決定します。